

# 地盤情報を活用した首都直下型地震に対する宅地防災検討委員会 第1回委員会 議事録

日時：平成30年12月12日（水）

時 間	15:00~17:00			場 所	地盤工学会 3F 大会議室		
清木 隆文 委員長	○	龍岡 文夫 顧問		王寺 秀介 幹事	○		
穴太 聖哉 委員	○	石川 敬祐 委員		大井 昌弘 委員	○		
落合 努 委員	○	木村 克己 委員		小荒井 衛 委員			
後藤 聡 委員		佐々木 修平 委員	○	芝村 圭 委員			
末政 直晃 委員		鈴木 一成 委員		鈴木比呂子 委員			
関口 徹 委員		武田 啓司 委員	○	塚本 良道 委員			
辻 浩平 委員	○	細川 聡美 委員	○	丸山 昌則 委員	○		
安田 進 委員	○	山口 恵美 委員	○	吉澤 睦博 委員	○		
渡邊 康志 委員	○	和田 里絵 委員	○				
大澤 健二 オブザーバ	○	西 喜士 オブザーバ	○				

議事： ※委員敬称略

## 1. 委員長挨拶

- ・ 委員長より、新規委員会の概要の説明があった。

## 2. 委員自己紹介

- ・ 出席した委員の自己紹介を行った。

## 3. 委員会の趣旨説明

- ・ 本委員会は、平成33年3月まで、約2年間実施する。

## 4. これまでの活動について

- ・ 地盤情報データの収集については、国交省の地盤情報に関する仕組みが、今年度変わった。建築確認申請の地盤データの収集はハードルが高い。
- ・ 地盤工学上の問題の整理については、業務や研究に忙しい委員個人に負荷をかけた面もあり、テーマによっては成果を出すのが難しかった。WG2の主旨を新委員会に継承するとしたら、委員の専門が多岐にわたっていることも考慮して、内外の講師に話題提供いただいて、皆で勉強するというのが良いのではないか。

## 5. 今後の活動について

- ・ 前委員会同様、WGに分かれて、活動を行う。
- ・ 本委員会での最終目標は、書籍「新・関東の地盤」の出版に向けた流れを作ることとする。

### (1) 地盤情報の収集整理・地盤モデルの高精度化に関する検討（WG1）

- ・ 東京都以外の市区町村のボーリングデータを調査する。「関東の地盤（第3版）」の作成に向けて3万本もボーリングデータの追加を目指す。
- ・ 地盤データ公開の法整備化に向けた動きは、進んでいない。詳細は「地質地盤情報の活用と

法整備を考える会」の HP (<https://www.geo-houseibi.jp/>) を参照のこと。

## (2) 地盤モデルを用いたハザードマップの高精度に向けた検討 (WG2)

- ・ 3次元解析を実施し、1次元・2次元・3次元モデルの結果を比較することで、3次元モデルの有効性を確認する。
- ・ 3次元グリッドモデルを用いた地震応答解析、液状化判定計算の環境を整備する。

## (3) サウンディングデータの活用方法の検討 (WG3)

- ・ WG3はこの委員会で新たに追加する活動項目であり、各委員に意見を募った。
- ・ サウンディングデータを活用するためには、データ公開を望む。  
→公共で実施したものは公開できる可能性があるが、ほとんど存在しないのが現状。
- ・ SWS データはかなり存在するが、ほとんど活用されていない。SWS 活用の課題は、換算 N 値の精度、調査深度が浅いこと、砂/粘土の区分ができないことである。
- ・ SWS は調査深度が浅いので、地盤モデルの作成に利用できるか疑問である。
- ・ 本委員会が宅地防災ということをテーマとしているのであれば、自治体では、大谷石などの擁壁の老朽化が問題となっている。それに加えて、その擁壁の所有者の高齢化が進み改修費用等も問題となっている

ー以上